

江戸時代の旅籠屋が甦る



庶民の宿
旅籠屋 清明屋
 本陣東に隣接する旅籠屋「清明屋」は、文化14年(1817)に建てられ、主屋・繋ぎの間・奥座敷で構成された旅籠屋建築の様式を良く残しています。平成14年より改修復原工事を行い、間取図の残る江戸時代末期の姿に復原しました。

二川宿 本陣資料館

当館は、近世交通史上貴重な文化財である「二川宿本陣」を保存活用し、見学できる資料館として平成3年8月に開館し、平成17年4月には、旅籠屋「清明屋」も同時に見学できる資料館となりました。また、近世交通史、郷土の歴史文化を調査研究する機関として、随時企画展や講座等も開催しています。さらに常設展示には、「東海道」「二川宿」「本陣」の3つのコーナーがあり、江戸時代の街道や宿場、本陣、大名行列などについて分かりやすく知ることができます。また、1階の体験コーナーには浮世絵摺りや双六ゲーム

があり、江戸時代の旅を楽しく学ぶことができます。



大名の宿 二川宿本陣

大名や公家など貴人の泊まる宿であった本陣は、旧東海道筋の宿場には2ヶ所しか現存していません。その一つが二川宿本陣で、非常に貴重な建物となっています。二川宿本陣は、文化4年(1807)より明治3年(1870)の本陣廃止まで本陣職を勤めた馬場家の建物です。馬場家が本陣を勤めていた約60年間に何度も増改築が行われ、安政2年(1855)には総建坪233坪半となり本陣として最も整備された状態となりました。今も当時の姿をそのまま残す本陣は、江戸時代の情緒を感じることができます。

